

【資料2】

平成23年度 伊万里市立滝野小学校 学校評価計画結果

1 学校教育目標
国際社会をたくましく生き抜くために、心豊かな人間性を育み、確かな学力を身につけ、自ら考え、判断し、表現や行動できる児童・生徒を育成する。

2 学校経営ビジョン
(1) 美しい自然に恵まれた小さな学校の特性を積極的に生かし、保護者、地域と連携を密にして、小さい学校だからこそできる「きめ細かな教育」の更なる充実を図る。 (2) 新学習指導要領のねらいである習得する力、活用する力の育成を図るため、教育課程の創意工夫を図る。 (3) 小・中校間の相互の授業公開や中学校教員の小学校での授業及び小中一貫の行事や交流を通して、小中の連携を強化し、小中学校の全職員で全児童・生徒を育てる教育の推進を図る。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
①学校運営に関すること ・保護者・地域との連携と協力を密にした小中一貫教育の実現 ②知育に関すること ・確かな学力の定着と表現力の育成 ③徳育に関すること ・道徳、人権・同和教育を柱にした心の教育の充実 ④体育に関すること ・食育と体づくりを通した心身ともに健康な児童の育成 ⑤本校の課題に関すること ・配慮を要する児童一人一人へのきめ細やかな対応	(1)学校行事(体育大会・学習発表会・ふれあい道徳)は地域参観の形態をとっており、保護者以外の校区民の参加も増えて、学校に対する関心度も高いものがある。 (2)個人カルテの活用や小中共に朝の時間に設定したトライアップタイムが定着し、基礎基本の学習の推進やコミュニケーション能力を育成する体制ができてきた。今後は、それらを児童のために生かしていく工夫が更に必要である。 (3)平成22年2月5日に「外国語・英語活動」の授業公開研究会を開催し、研究協議会では講師の先生から貴重な指導・助言を得ることができた。 (4)基本的な生活・学習習慣を身につけさせるために家庭との連携を更に強化していく必要がある。 (5)小中連携についてはより一層充実させていきたい。

5 総括表

重点目標① 保護者・地域との連携と協力を密にした小中一貫教育の実現

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
学校運営	○開かれた学校づくり	家庭や地域との連携並びに協力	1: 授業参観等への保護者参加率を100%とする。 2: 学校行事(体育大会・学習発表会・ふれあい道徳等)を地域参観と明確化し、校区住民の参加を図る。	1: 学校からの情報発信を積極的に行い、地域行事への児童の参加・協力を行う。 2: 学校だよりを全世帯に配布する。	A	1: 保護者の参加率はほぼ達成できた。 2: 行事等を通して校区住民の参加率も年々上昇している。 ・学校と家庭、地域との協力はよく図られている。家庭や地域は学校に協力的である。 ・小中併設校としての取組、また、「ふるさと」を意識した特色ある取組を行うことができていいる。 ・学校・学級便り(学習計画含)により、児童の様子がよく伝えられている。 ・学校行事等において、保護者や地域の方々から大きな支援と協力をいただいている。祝祭日に行う学校行事への参加率は90%を超えている。 ・対外的な行事に対する保護者の理解も深く、児童送迎への協力、引率についても快く引き受けていただいている。 ・地域の人材、自然、物について、学校の授業や行事等で引き続き活用を図ってきたい。 ・学校の施設や設備の地域住民の方による活用については、支障なく活用されている。 ・地域の特色ある行事に、学校より全児童が参加している。
	○小中連携の推進	小中連携の充実	1: 学校行事や授業での小中の協力や交流を更に推進する。 2: 小中全ての職員で全児童・生徒の教育にあたる。 3: 職員の連携達成度90%とする。	1: 各部並びに校務分掌担当者が小中職員間の意思疎通を円滑に行う。 2: 学校行事では、改革改善を念頭に安易に前例踏襲にならないように、前年度の反省をもとに計画を立てる。	A	1: 小中の協力や交流は十分できた。 2: 校務分掌等連携についてもほぼ達成できた。 ・小中協力して、いろんな行事を合同で執り行うことができた。今後とも小中連携にしっかりと努めていかなければならない。 ・学力向上の取組について、小学校から中学校へ系統性をもって、校内研究の中でしっかりと取り組んでいかなければならない。 ・職員が少なく、校務分掌で担当する役割がどうしても多くなるが、小中協力し、調整を図りながら分担していくことが大切である。 ・お互いに協力できるところは協力し、更によりよい運営に努めていかなければならない。 ・小中連携は、普段からの「報・連・相」をしっかり行っていくことが大切である。 ・中学校の協力のもと、乗り入れ授業をうまく組むことができた。
特定課題	○読書活動の充実	家読の推進	1: 市が推進している「家読」について、毎週1回は必ず行う。 2: 毎週80%以上の実施率で達成とする。	1: 毎週火曜日を実施日とする。 2: 実施状況を確認するために実施翌日に調査をする。 3: PTAの会議で情報交換の場を設定し、家庭での取組について話し合い、実施率向上を図る。	B	家読の取り組みについては、個人差があり、まだ不十分である。 ・毎週火曜日の「ノーテレビ・ノーゲームデー」と「読書しようデー」の取組は、いざ実行するとなると、なかなかできていないところがある。 ・家庭での取組にあたっては、趣旨を十分に理解していただき、一年を通して確実に実行していただきたいものである。学校からの啓発もしっかり行っていきたい。

重点目標② 確かな学力の定着と表現力の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
学校運営	職員の資質向上	教職員の学習指導力の向上	1: 意欲を引き出し、習得する力、活用する力を育てる指導力を身につける。 2: 児童が「分かる授業・できる授業・明日も学びたい授業」を目指す。 3: 学校評価(児童の部)で達成度90%とする。	1: 校内研究・研修を充実させ、全職員が年1回以上の授業公開と研究会を行う。 2: 学力向上につながる情報交換の場を積極的に設定する。	A	1: 教職員が叡智を出し合い、学習意欲・習得力・活用力の向上に積極的に取り組んだ。 2: 児童による評価項目の達成度が到達できた。 ・自主研究発表会を開催する等、校内研究や研修にあたっては、当初かつてない盛り上がりを感じられた。長続きするためには、P—D—C—Aサイクルに沿って、取組を進めていかなければならない。 ・今年度も授業研究会開催にあたっては、活発な意見交換を行うことができた。外部からの講師の先生より貴重な指導・助言を得ることもできてよかった。 ・児童からの評価は高いものがある。職員もこれを励みに日々精進していきたい。
教育活動	●学力向上	児童一人一人の学力向上	1: 学習状況調査等で県や市の平均以上の児童を増やす。 2: 「個人カルテ」の実施と活用ならびにトライアップタイムの取組を確実に行う。	1: 少人数学級を活かした指導法の積極的な取組を図るとともに「カルテ」を生かして家庭学習の習慣化を図る。 2: トライアップタイムの活用や「家庭学習のすすめ」をとおして、学力を支える基本的な生活習慣と学習習慣を着実に身につけさせる。	B	1: 「個人カルテ」による現状把握はできたが、個別指導が不足した。 2: 「トライアップタイム」の実施はできたが、効果的な活用がもう一歩である。 ・今年度も学力テストの結果については、外部から講師を招いて全職員で分析し、今後の取組について話し合う機会を設けた。何事も「やりっぱなし」にならないようにしたい。全員で事後の検証を行うことは大切である。引き続き、講師招聘による研修会を開いていきたい。 ・基礎的な知識の定着は勿論、活用力育成にあたっての取組が必要である。例えば、長文読解、条件付き問題の取り扱い、資料やグラフの読み取り、問題解決学習の取り扱い等、計画的に取り組んでいきたい。
		○活用力(思考力、判断力、表現力)の向上、言語活動の充実	1: 問題解決学習に取り組み、問題解決にいたるプロセスを大切にしてい中で、思考力や判断力を養うとともに、自分の考えを積極的に表現しようとする力をつける。 2: 言語活動の充実を図るために、各教科・領域における学習に学び合い活動を取り入れ、「表現力育成」に取り組む。	1: 各教科・領域における年間計画の中で、問題解決学習に取り組む単元を設定し、計画的に取り組む。 2: 学び合い活動の研究を進め、各教科・領域の学習に、発表し合う、意見交換する場の工夫をする。 3: スピーチタイムを設定し、自分の考えや意見を言う機会を増やす。	B	表現力育成を中心に据え、ほかの力も徐々にではあるが身につけてきている。 ・表現力育成については、授業を中心に据えて、学びあい、練り合いの活動を取り入れながら、育成につとめている。また、知識を基盤とした、応用力や活用力を育てるために、今後とも長文を取り扱う、条件付きの問題に取り組む、資料やグラフの読み取りといった活動について、さらに力を入れてじっくり取り組んでいかなければならない。

重点目標③ 道徳、人権・同和教育を柱にした心の教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
----	------	--------------------	-------	-------	----------	-------

教育活動	道徳の時間	道徳教育の充実	1:年1回以上、全学級で道徳の授業を公開する。 2:機会ある毎に児童に対し、心を揺さぶる説話を。学級では、毎週1度。学校全体として月1度で達成とする。 3:児童に先人が創作した「童謡」を聞かせ、音楽を通して心の安定と童謡詩にある言葉を通して多様な心を養う。朝・給食時間・清掃時間に流して達成とする。 4:「心のノート」を使った指導をする。	1:道徳指導に関する情報の共有を心がける。 2:「ふれあい道徳」は、校区民の方々にも案内状を出す。期日は、12月5日(日)とする。 ①親子ふれあい「昼食弁当づくり」 ②親子集団登校 ③公開授業(小学:1時間・中学:1時間)計2時間	B	1:「ふれあい道徳」は、12月5日に実施することができた。 2:教師による説話の取り組みや「童謡」を毎日聴かせることはできた。 3:「心のノート」を活用した授業が不十分であった。	・「ふれあい道徳」の取組については、今年度も参観日を設け、保護者や地域の方と一緒に学習が進められてよかった。 ・いじめや仲間はずしのない学級・学校づくりに努めていかなければならない。 ・自己肯定感や自尊感情を育てる取組を行う必要がある。やればできるんだという意識を持たせ、勉強にしろスポーツにしろ積極的にチャレンジさせていきたい。 ・学校でのいろんな取組については、適宜保護者に伝えていかなければならない。 ・研究授業に道徳の授業を行い、協議の機会を設けて話し合うなど、実りある研修会ができてよかった。
	●心の教育 (心の教育3点セットの活用)	○童謡に親しむ。	児童に先人が創作した「童謡」を聞かせ、音楽を通して心の安定と童謡詩にある言葉を通して多様な心を養う。	朝をはじめ機会ある毎に「童謡」を放送を通じて流す。	A	1:機会を見つけては童謡に親しむようにした。 2:文化祭では、保護者、地区の方と一緒に歌った。	・伊万里ならではの素晴らしい取組であることをもっと意識化させていきたい。 ・心が和む取組であり、機会を設けて今後も童謡にふれていきたい。
		○「命」の教育	「命」の資料を活用し、命の尊さ、自他の命を大切にすることを育てる。	命の尊さ、命を大切にすることを育てるための資料や教材を学習に役立てる。	A	1:資料を活用したり、機会を見つけては童謡に親しむようにした。 2:交通安全、防犯教室等で安全教育をしっかりと行うことができた。	・安全教育の充実が更に必要である。普段から自分の命だけでなく、人の命を大切に思う心を育てていきたい。 ・今後は、教育計画にあげて計画的に取り組んでいかなければならない。
教育活動	●心の教育 (心の教育3点セットの活用)	○「伊万里っ子しぐさ」の徹底	1:「伊万里っ子しぐさ」のカレンダーを十分に活用し、児童・保護者だけでなく、教師自身の言動を向上させる。 2:相手を気遣う言動ができた児童をほめたり、児童集会で「しぐさ」を唱えさせる。 3:学校評価に本項に関する事項を設け、達成度をみる。80%の達成とする。	1:小中合同集会等、機会あるごとに児童に「伊万里っ子しぐさ」を取り上げ、担当者が説諭する。 2:「伊万里っ子しぐさ」カレンダーの言葉を各学級で唱えさせる。	B	1:朝の放送や教室での朝の会で、毎日確かめることができたが、実際の行動にもっとつなげていかなければならない。 2:「江戸しぐさコンクール」で学校賞を受けた。	・毎朝の確認はできているが、実際の行動にあまり結びついていない。これは、心を耕す取組として、共通理解のもと、指導にあたる必要がある。 ・「江戸しぐさコンクール」の取組を通して、意識が高まったと思う。今後は、校内でも独自にこういう取組を設け、全校あげて取り組んでみたらどうかと思う。
	○人権・同和教育	人権・同和教育の充実	1:学校全体及び学級で計画的に取り組む。 2:人権・同和教育に係わる説話を児童に行う「やまびこ広場」を毎月1回設定する。毎月実施できて達成とする。	1:学級の実態に応じた説話等を人権・同和教育の年間計画にそって行う。 2:「やまびこ広場」の年間計画を立てる。(人権・同和教育担当者と教務との連携)	B	1:計画的に取り組んだ。 2:「やまびこ広場」は確実に実施できた。 3:児童の人権意識が高まっているが、普段の言動にもっとつなげていかなければならない。	・支持的集団づくりや仲間づくりを中心に据えた人権・同和教育が適切に進められている。 ・時折、友だちとのトラブルがあったり、人の気持ちを考えない不用意な発言が飛び交うことがある。人権尊重の精神に立った、小学校1年からの系統的、継続的な取組を図っていかなければならない。

重点目標④ 食育と体づくりを通した心身ともに健康な児童の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	
教育活動	●健康・体づくり	○食育等を通した健康・体づくり	1:朝食摂取率100%とする。(学校評価の活用) 2:栄養バランスを考えた食事を摂らせるように家庭と連携する。PTAの会議で話題にする。毎回話題にして達成とする。	1:給食指導を充実し、食や栄養に関する講話も定期的に行う。 2:食育担当者を中心に、外部から栄養教諭を招聘し、研修会を開催するなど、その指導法を学ぶ。	A	1:児童の評価から朝食の摂取は確実にできている。 2:PTAの会議等、機会ある毎に話題にした。	・体づくりについては、体育的な行事に関連して、体育の授業や昼休みを利用して取組を計画、実行してきた。今年度もこのような取り組み方でもよかったのではないだろうか。 ・給食については、小中児童生徒、職員も一緒になって楽しい給食時間が過ごせている。 ・時間はかかっては好き嫌いがなく、児童全員が残さず食べて食べてくれた。
		○性教育の推進	1:性教育の学習を年1回は行う。その際は、学年相応の内容で、系統的な計画を立てて行う。 2:「命の教育」や保健の学習とも関連づけながら適宜指導する。	1:適切な教材や資料を選択し、誤解や偏見が生じないように、丁寧な指導を心がける。 2:「命の教育」や保健の学習と重なる内容もあるので、事前の教材研究の中で、関連する内容をしっかり把握し、関連づけながら指導することで理解を深めるようにする。	B	1:「男女の違い」、「大人の体」等、学年相応の内容であっても、捉え方に個人差があったり難しい。 2:高学年は、保健の学習として取り扱う。	・低学年より系統的、計画的な取組を必要である。 ・個人差があるので、指導する側も十分配慮しながら学習を進めていかなければならないと思う。 ・適切な教材や資料の充実にも今後努めていかなければならない。

重点目標⑤ 配慮を要する児童一人一人へのきめ細やかな対応

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	
特定課題	特別支援教育	必要な生徒への特別支援の体制づくり	1:会議で児童に応じた支援ができるような協議を設定する。 2:全職員で共通理解し、取組む。 3:「個別指導計画」「個別支援計画」を作成する。	1:校内委員会の設置とともに毎月1回は、小中合同で情報交換を行う。 2:外部機関との連携を図る。	B	1:支援を要する児童について全職員への情報発信や支援要請を積極的に行った。 2:計画的に支援していくが、現実なかなか難しい。	・個別の支援について話し合い、級外を中心に、個への対応ができたのではないかとと思う。 ・個人カルテや普段の観察等を通して、児童理解に努め、個に応じた対応や手立てを今後ともっていく必要がある。
	教育相談の充実	不登校の未然防止	1:「滝野小は楽しい、明日も学校に行きたい。」と思う児童を育てるために教師と保護者が常に連絡を取り合う。 2:SC・保護者・教育相談担当者等と連携し、校内研修や他機関が実施する研修会に積極的に参加する。参加率が80%で達成とする。	1:教育相談体制を構築する。 2:毎月1回は「気にかけておきたい児童」について協議する。 3:教育相談担当者による長期休業中の研修を開催する。 4:学校評価(児童の部)を行い、一層充実した学校生活ができるように全職員で取り組む。	A	生活状況の調査を活用したり、SC、SSW等の協力を得ながら取り組むことができた。	・「楽しい」、「明日も学校に行きたい」と思える学校づくりのため、授業改善や学級・学校づくりに努めていかなければならない。 ・保護者には、学校職員以外の専門家に相談できることを広く知らせていきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題	
教育活動	●外国語活動	外国語活動指導の充実	1:新学習指導要領の方針に沿った取組ができる。 2:「英語活動ノート」を活用した取組ができる。年間計画にそって取り組むことで達成とする。(5・6年) 3:担任とALTが連携を図った取組ができる。(全学年)	1:「外国語活動」の指導充実を図るために、高学年担任並びに教務主任が新学習指導要領の方針に沿った計画を立てる。 2:教材や資料を効果的に、且つ積極的に活用する。 3:メールを通して、ALTと事前の授業打ち合わせを前日までしておく。	A	1:指導要領の方針にそった取組ができた。 2:「英語活動ノート」を活用した取組ができた。 3:各担任とALTが連携をとり、積極的な外国語・英語活動ができた。	・英語ノートの活用は、5、6年生中心であるので、他の学年で取り扱うことはない。ノートも来年度から新しくなるので、内容をよく吟味し、適宜活用していきたい。 ・児童の興味・関心も高く、順調に学習を進めることができた。 ・活動にあたっては、今後とも計画的に進めていきたい。
	●ICT活用教育	職員のICT活用の推進	1:ICTを利用した教材や資料の収集・作成等について実践し、今後の取組に繋げる。 2:授業の中でICT活用がされた活動(内容)を取り入れる。	1:研究会や研修会への参加を奨励する。 2:機器の整備に努めるとともに、授業中でのICT活用を図るように進める。	B	電子黒板を使っでの利活用が、不十分である。	・ICT活用にあたっては、研修会に参加したり自分で実際に活用してみたりすることを通して、職員間でもその有用性について議論し、よりよい活用のあり方を探っていかなければならない。
特定課題	●小学校低学年学習環境改善充実	○幼・保・小連携の推進	それぞれの行事をとおして交流し、関係を深めるとともに、相手を思いやる心を育てる。	体育祭での保育園からの参加や保育園での催し物へお互いが参加し合う。直接ふれ合う活動を取り入れながら、コミュニケーションを深める。	A	1:体育祭で保育園のすばらしい踊りが披露された。 2:お互いの交流が計画的に進んだ。	・体育祭での保育園からの参加や保育園での催し物へ積極的に参加することができた。 ・今後とも幼保とも一緒に連携を図りながら活動を進めていきたい。 ・小1プロブレム解消のためには、事前の聞き取り、在校生とのふれ合いが大切である。

・今年度は、新しい学習指導要領が完全実施された年であった。教える内容の増加、それに伴う授業時数の増加、教科書も変わって、まさに新しい年度の始まりであった。各評価、評定を見ると、昨年度とそれほど変わっていない。むしろ良くなっている項目もいくつか見られる。それだけ、前向きに、真摯に取り組んできた結果なのかも知れない。これに甘えることなく、今後とも謙虚に、素直に肅々と日々の教育実践に取り組んでいきたい。

・各評価項目について、職員、保護者、児童よりそれぞれに一定の評価がなされていると思う。しかし、評価項目を細かく見ていくと、中には、評価が低く、改善、改革が必要な内容も見られる。これらについては原因を探るとともに、「判断の基準は子どもである」ことを前提に、組織をあげてその解決に向けて取り組んでいかなければならないと思う。

・日頃より「報告・連絡・相談」を密にし、コミュニケーションを図りながら意見交換し、互い協力し合う体制づくりに努めていかなければならない。

・開かれた学校づくりや信頼される学校づくりのためには、保護者や地域の協力が不可欠である。学校としては、「透明性」、「情報開示」、「説明責任」をしっかりと果たしていく中で、真に「開かれた学校」、「信頼される学校」にしていかなければならない。中でも特に大切なのは、「説明責任」である。保護者、家庭の協力を得るには、子どもの実態に触れ、よりよい成長のためにはどうすればいいのか、学校からの説明をしっかりと行う中で、理解と協力を得ていかなければならないと思う。

・学力向上に向けては、校内の研究や研修の中身を更に充実させ、職員各自の資質の向上についても更に取り組んでいかなければならない。外部研修会への参加、教育センター講座の受講なども積極的に考えていきたいところである。

・ICT活用については、来年度全教員に研修が課せられる。学ぶ姿勢をもって、多くの内容を吸収し、日々の授業実践に活かしていきたい。

・成果と課題についてまとめ、成果については更に取組を充実させ、課題については、その解決にあたり全職員で知恵を出し合い、改善、改革に努めていかなければならない。

7 来年度の改善策

- (1) 小中連携については、その取組を更に充実させていきたい。
- ①9ヵ年体制による教育課程の編成(生活の基礎基本・学力向上・学校行事)
 - ②中学校教師による学習指導の実施
- (2) 保護者に信頼される学校づくり
- ①保護者と連動した学校行事の実施(行事の精選と内容の充実へ)並びに家庭教育の充実へ。
 - ②「ノーテレビ・ノーゲーム」の見直し(視点:テレビ視聴時間)
 - ③「伊万里っ子しぐさ」の本格的な取組(PTA活動との連携)
 - ④学校便り・学級便りを生かした情報の提供
- (3) “明日も滝野小学校に行きたい児童の育成するため”の取組
- ①「判断の基準は児童である」ことを教師が忘れずに児童を指導したり、諭したりしていく。そのためにも教師自身の「教師としての資質の向上」だけにとどまらず、「人間としての自己修養」を行う。
- (4) 評価項目の再検討
- ①小中(保護者・職員・児童生徒)の項目については、中学校とも協力し、更に改善を図っていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目